

学術情報へのアクセス向上を目指して—機関リポジトリのいま

ブラジル — 機関リポジトリとオープンアクセスジャーナル

萩野洋司

最近、ブラジルで情報への "Aceso Livre"、英語でいう "Open Access" に関する動きが政府や大学、学会で加速している。

ここでの「情報」とは、ありとあらゆる情報ではなく、「科学情報」のことで、物理学や化学、工学などの他、農業、生物学、保健、コンピューターなどの自然科学分野の情報を中心であり、社会科学分野は人文科学と応用社会学で、これら科学分野の発展のための「情報へのアクセス」、それもインターネットでも無料で自由に情報の内容すべてが見られるという「オープンアクセス」を広めようとしているのである。この情報アクセスに向けた戦略として、科学・技術省ブラジル科学・技術情報研究所 (IBICT) の KURAMOTO 博士によれば、二通りの道があるという。公称ではないが、グリーン・ロードとゴールド・ロードと名付けられたもので、前者は機関リポジトリの構築を行う道、後者はオープンアクセスジャーナルの拡大を図る道、この二つの道をたどる目的が「オープンアクセス」にあるという。

ここでは、この二つの戦略の内容を中心

に紹介することにした (なお、ネットアドレスは最後にまとめて記す)。

●グリーン・ロード戦略

この戦略では、機関リポジトリ設置の義務化を求める法案 (PL 11210/2007) が要となる。ラテンアメリカ諸国では最初というこの法案は、IBICT が成立を進めているもので、国内の公的な高等教育機関や調査機関に対し、ここでの科学技術刊行物の内容をインターネット上でオープンアクセスできるようにするための機関リポジトリの設置を義務づけると共に、IBICTにはこれら機関リポジトリのネットワークでの統括を委ねるという趣旨の法案である。

ここでいう刊行物とは、修士や博士、ポスドクなどの学生によるもの、学部や大学院の教員によるもの、更には公的資金による研究を行った研究員や教員の研究成果を指している。

なお、著作権に関する記述はあるが、それは、公的資金を得た研究者の場合で、その刊行物が著作権契約で保護されており、

内容すべてを機関リポジトリに収納することが不可能な場合は、そのメタデータを収録することを著者に義務づけることだけである。

この法案は、二〇〇七年五月ブラジル国会の下院議員が提案したもので、二〇〇八年五月に下院の科学・技術・通信・情報委員会を通過し同年二月現在、教育・文化委員会で審議されている。この後、憲法・司法委員会と下院本会議を経て上院に送られ、その各委員会でも審議される。

科学委員会で修正意見が付けられたが、それは法案の根本にかかわるものではない。修正の主な箇所は、この機関リポジトリの統括はIBICTではなく、政府の科学・技術情報分野の開発担当機関が負うこと、また著作権の部分では、これが知的所有権に変更されたこと、メタデータのみ収録義務とされる刊行物は、連邦や州、郡の行政府の資金による調査研究の成果物と明確に規定され、この所有権契約で保護される場合のほか発明や特許出願中のモデルを含んでいる場合とされたことである。しかしこの知的所有権の期限が切れれば、その全



機関リポジトリのいまを指して—アクセス向上を目指して—

文を公開する、という条件には変更はない。IBICTでは、この機関リポジトリに
関し、ポータル(Oasis・Br (ブラジル・オープンアクセス学術情報システム)を
置しており、このサイトで機関リポジトリのみならず科学雑誌へのアクセスをも可能
にしている。

ブラジルにおける機関リポジトリの数であるが、英国サザンプトン大学が運営するROAR (オープンアクセスリポジトリ登録)によれば、全世界の登録済みのリポジトリで、ブラジルは第五位で六二(昨年末時点)あるという。途上国の中ではすでに最大であるが、法案が成立すれば設置が一段と進むことは間違いなく、一位のアメリカに匹敵する三桁の数になるであろう。

なお、IBICTには、BDTD (ブラジル学位論文デジタルライブラリー)というポータルが別にある。このサイトでは連邦や州立、私立の大学と研究所計七八機関におけるデジタルライブラリーにある学位論文に関して、機関毎及び横断の検索ができ、その要約や全文(七万点以上)へのオープンアクセスが可能となっている。

●ゴールド・ロード戦略

このオープンアクセスジャーナルへの道は、SciELO・Brazil (ブラジル・科学電子ライブラリーオンライン)で辿る。この電子ライブラリープロジェクトは、一九九七年三月サンパウロ州研究支援基金

(FAPESP)が全米保健機構のラテンアメリカカリブ保健科学情報センター(BIRME)と協同で、ブラジルの科学の発展に貢献することを企図し、科学雑誌の蓄積や普及などに必要な電子化方法を開発するために始まった(今日でもこの方針は変化はない)。二〇〇二年からは科学・技術省の国家科学・技術開発審議会(CNPq)もこの開発・運営への支援を実施し始めた。この結果、一九九八年ネットに載ったこの電子ジャーナルのコレクションは国内一〇誌にすぎなかったが、現在では二四誌(うちカレントな雑誌は一九三誌)になるまでに至っている。

このコレクションの雑誌を分野別に見れば、環境や教育などの人文科学が六一誌、応用科学の政治や経済誌が二五誌で社会科学分野は計八六誌、自然科学分野では、保健科学七〇誌、農業科学二八誌、生物学二七誌、工学一三誌の計一三八誌、それに言語・芸術の二誌である(ただし、すべて初号から収録されているわけではない。また複数の部門に分類されている雑誌もあり、合計すれば二四誌以上となる)。

そして今、SciELOは国際プロジェクトへと発展している(参加国の国別サイトはSciELOの後にその国の英語名が付く)。この国際プロジェクトには、ブラジルの他ラテンアメリカ五カ国にポルトガルとスペインも加わり、八カ国のコレクションの合計は六〇四誌に達している。更に、他のラ

テンアメリカ五カ国でもこれに加わる準備作業を進めている。このため、SciELOの画面はポルトガル語の他、スペイン語と英語の三カ国語で表示できる。

以上、二つの戦略には連邦政府の科学・技術省が深く関与しており、科学情報へのオープンアクセスを目指す国家プロジェクトの姿が見えている。

なお、この他に電子ジャーナルに関する政府機関のポータルとして、教育省の高等教育人材育成機構(CAPES)が設置・運営しているものがある。国内外一万二〇〇誌以上の雑誌の記事全文の他、二〇強のデータベースへのアクセスを無料で提供しているが、対象が参加機関の利用者のみであり、無料で誰でも利用できるオープンアクセスではない。

●アドレス一覧以下のサイトは最後を除きポルトガル語表示である

- *前記法案の内容や審議状況に関しては、ブラジル下院：http://www.camara.gov.br/sileg/Prop_Detalhe.asp?id=352237
- *BDTD：<http://bdtbict.br/>
- *Oasis・Br：<http://oasisbrict.br/>
- *SciELO・Brazil：<http://www.scielo.br/>

(おぎの ようじ／アジア経済研究所 図書館)